

墨田区が目指す持続可能な“すみだ”

江戸時代から続く職人の技が受け継がれてきたまち“すみだ”

匠の技を過去から現在、そして未来に伝える「古き良き伝統」が根付き、明治の近代化で軽工業発祥の地となったことで現在も、日用品などの生産をはじめ産業が盛んな“ものづくりのまち”です。

墨田区は2021年に内閣府から「SDGs未来都市」と「自治体SDGsモデル事業」に認定されました。

産業を更に活性化することで、“すみだ”で暮らす人、働く人たちが「働きがい」や「生きがい」をもち、健康や環境への意識を高め、「持続可能な豊かな暮らし」を実現することが目標です。理想の“すみだ”を実現するため、産業・健康・環境分野を中心に、SDGsの取組を推進しています。

産業

～連携と挑戦～

墨田区に根付いてきた様々な産業。しかし今、経営者の高齢化、後継者不足などが課題となっています。区が誇る産業とその担い手が生み出す「価値」を高めるため、新しいアイデアをもったスタートアップ企業と区内企業・事業者との連携を促し、持続的に経済を回していくことのできる仕組みをつくります。

また、出来上がった製品を多くの人に使い続けてもらえるように、従来の技術を大切にしながら、新しいデザインや、使い方を考えることも大切な視点です。現代の生活様式に合わせた工夫も積極的に行っています。

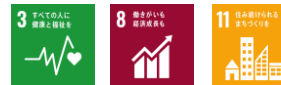


健康

～健康的な暮らし～

持続可能な社会を築くためには、現在を生きる私たちが健康を実感しながら生き生きと暮らしていける社会が欠かせません。

区内企業・事業者に勤める従業員が、やりがいを感じながら、健康的に働くことができる「健康経営」の仕組みをつくります。働く人がやりがいをもって働くことができる環境で生まれた“ものづくり”は、結果として他の分野（産業・環境）にも良い影響をもたらします。



環境

～環境にやさしいものづくり～

カーボンニュートラルを見据え、エネルギー消費量やごみの削減、クールビズやウォームビズなど、環境に配慮した働き方・暮らし方をする必要があります。

墨田区で受け継がれてきた伝統工芸の特徴の1つである手作業も、環境にやさしい取組と綿密に関わっています。大部分の工程が手作業で生産されることから、電気などのエネルギーの消費はごくわずかです。手間暇のかかる手作業の品々だからこそ、大量生産・大量廃棄による多大な環境への負荷が発生しづらい環境にやさしいものづくりとして受け継がれているのです。





江戸文字（えどもじ）とは

江戸・徳川幕府の時代に、盛んに使用された用途の違う数種類の文字の総称です。江戸庶民の反骨精神、そして人々の熱意と思ひやりの気持ちから生まれたという江戸文字は、使用される用途や書体によって、別々の名称が付けられています。

●江戸文字とお祭り

日本人の生活に根付いていた江戸文字。特にお祭りの提灯に多く活用されました。すみだには昔からたくさんのお祭りがあり、提灯は欠かせないものでした。お祭りのたびに注文が入り、江戸文字を描く「描き屋」としての商いが成り立っていたのです。



ポイント

お祭りが行われることで

- ・お金が循環する
(経済の活性化、経済成長)
- ・仕事が増える
(働きがい、住み続けられるまちづくり)



提灯は提灯専門の職人が、扇子は扇子専門の職人が作り、文字入れの工程で「描き屋」に運ばれてきます。日常的に使わなくなった提灯や扇子などは作る職人も減っているのが現状です。また、描き屋の大切な道具「筆」も入手困難になっているため大切に使っています。



ポイント

日本の多くの伝統工芸は、職人さんたちの協力（パートナーシップ）によってひとつの製品ができあがっている。



優れた品が正しく評価されるために
すみだ3M（スリーエム）運動

3M
Mainstream
Minister
Manufacturing shop
すみだ3M運動

優れた産業と生産品が正しく評価されることも大事です。ものづくりの素晴らしさや大切さをアピールするため、小さな博物館、(Museum)、すみだマイスター(Meister)、工房ショップ(Manufacturing shop)の取り組みを積極的に行っています。

／体験いかがでしたか／
SDGsに関連した取り組み
は発見できたでしょうか？

- *今日お話ししてくれた人
- *気づき、発見
- *SDGsゴール達成のために大切だと感じたこと

などを記録しよう！



籠字（かごじ）
提灯や札などに使われる江戸文字の代表格

「ものづくりのまち すみだ」のまちづくり

水運に恵まれた墨田区には、江戸時代より多くの地場産業が発展しました。明治時代には近代産業の発祥の地となり、戦後の高度成長期には約1万もの中小企業が建ちならび日本を代表する「ものづくりのまち」となりました。しかし、バブル崩壊や日本人の生活様式の変化などによる事業者の減少や今では後継者問題も抱えています。それでも多く訪れるようになった外国人観光客の目にとまり、優れた技術が見直されつつあります。すみだでは産業を守るため独自の取り組みを行っています。

いろんな職人さんと会える！「ものづくりのまち すみだ」

墨田区は古くからものづくりのまちとして知られ、印刷・金属・繊維・革など多様な業種が集積して多くの職人が活躍しています。優れたものづくりを間近に感じることができるのも「ものづくりのまち すみだ」の特長です。

アトリエアミーチ【革クラフト体験】

墨田と革について 革づくりには大量の水が必要です。墨田区は荒川、隅田川、旧中川に囲まれて、水辺に恵まれた土地です。また、江戸時代から近代工業の発祥の地として、さまざまな産業が発展してきました。その一つとして革づくりに適した場所であったこともあり、皮を革に加工する関連の事業者が多く集まりました。特に、すみだでは豚革（ピグスキン）の加工が盛んで、食用の豚肉加工の副産物として国内で唯一、自給できる皮革です。革に関わる多くの事業者が集まるすみだでは、工程をエリア内で連携・完結できています。

アトリエアミーチは、鞆や小物・インテリアなど、革クラフトの工房ショップです。学生かばんメーカーを原点とした工房で長年革と向き合ってきました。



＼体験いかがでしたか／
SDGsに関連した取り組みは発見できたでしょうか？

***今日お話ししてくれた人**
***気づき、発見**
***SDGsゴール達成のために大切だと感じたこと**
などを記録しよう！

●長く大切に使える素材「革」

革にはたくさんの種類があり、様々な用途で使われています。1枚の革が仕上がるまでには多くの加工行程があり手間がかかるため、革製品は高級という印象があります。その分、丈夫できちんとお手入れをすれば一生ものとして親子何代にもわたって使い続けることができます。



革は、カバンや靴、小物以外にも衣服や、ソファなどのインテリア用品、グローブなどのスポーツ用品や、楽器などにも使われている



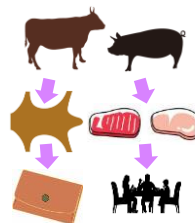
ポイント

正しくお手入れをすれば、半永久的に使うことができる革製品



●副産物を有効活用した素材

墨田で盛んな豚革は食肉の副産物です。人間がお肉を食べる限り動物の皮膚は使わなければゴミになります。動物の大切な命をいただくからこそ、その皮膚は「革」に加工して製品に生まれ変わります。肉は食品、骨は肥料や研磨剤、脂は石鹸、コラーゲンは衣料品や化粧品へと無駄なく使われています。



ポイント

・食用の動物からいただく副産物の有効活用
・本革はエコでサステナブルな天然素材



コラム

「ものづくりのまち すみだ」のまちづくり

水運に恵まれた墨田区には、江戸時代より多くの地場産業が発展しました。明治時代には近代産業の発祥の地となり、戦後の高度成長期には約1万もの中小企業が建ちならび日本を代表する「ものづくりのまち」となりました。しかし、バブル崩壊や日本人の生活様式の変化などによる事業者の減少や今では後継者問題も抱えています。それでも多く訪れるようになった外国人観光客の目にとまり、優れた技術が見直されつつあります。すみだでは産業を守るため独自の取り組みを行っています。



子どもがキラめくホンモノ体験 すみだ探究工房 × 旅いく



たくさんの作り手が営むまち、すみだ。さわってみたい、作ってみたい、もっと知りたい。そんな子どもたちの気持ちの広がりを大切に、工房の職人さんたちが特別に子どもたちにひらいて行う探究学習プログラムです。

